

## JGSS-2017 調査票の設計

—EASS 2016 家族モジュールと新規項目(同性の結婚・Grit スケール)—

西川 一二<sup>1</sup>

京都大学大学院教育学研究科

角野 隆則<sup>1</sup>

オックスフォード大学社会学部 博士課程

岩井 紀子

大阪商業大学総合経営学部

JGSS-2017 Questionnaire Design:  
EASS 2016 Family Module and New Items (Same-sex Marriage and Grit Scale)

Kazuji NISHIKAWA  
Graduate School of Education  
Kyoto University

Takanori SUMINO  
Department of Sociology (DPhil)  
University of Oxford

Noriko IWAI

Faculty of Business Administration  
Osaka University of Commerce

This article reports on the development of the Japanese General Social Survey (JGSS) 2017 questionnaire. The JGSS-2017 aims to provide detailed and latest information on Japanese attitudes and behavior toward family by including a common set of questions with Korean, Chinese and Taiwanese General Social Survey teams on family demographics and attitudes 10 years after the East Asian Social Survey 2006 Family Module. Some of the topics are: living with their parents/children, family interaction/support, attitudes toward marriage, divorce, father authority, male priority in inheritance, and the gender division of labor. In addition, the JGSS-2017 continuously works on the study of people's attitudes and behavior toward social sustainability. In line with the growing interest in gender and sexuality in Japan and across the globe, the survey also added a question item on same-sex marriage. Finally, we conducted a split-ballot experiment on grit (perseverance and consistency of interest), a personality trait recognized as being associated with academic and social achievement, to explore the possibility of the grit-scale being incorporated in the EASS 2018 Culture and Globalization Module.

Key Words: JGSS, EASS, Family, LGBT, Grit

本稿は、日本版総合的社会調査 2017 (JGSS-2017) の調査票作成の経緯と検討課題をまとめたものである。JGSS-2017 は、東アジア社会調査 (EASS) 2016 家族モジュールの共通設問群—親や子どもとの同居・相互交流・支援状況、家族観 (性別役割分業意識、結婚観、離婚観、父親の権威、男子優先相続など)—を調査票に加えることにより、日本人の家族観と行動について、EASS 2006 から 10 年後の詳細な情報を提供することを目指している。JGSS-2017 では、社会の持続可能性にかかわる人々の意識と行動についても引き続き掘り下げている。ジェンダーやセクシャリティに対する国内外の関心の高まりに対応して、同性の結婚の設問なども新たに加えた。さらに、学業達成や社会的達成と関連するパーソナリティ特性として近年注目を集めている Grit (根気や一貫性) の尺度を、EASS 2018 東アジアの文化とグローバリゼーションに組み込む方法を探るために、split-ballot の方法で検討した。

キーワード : JGSS, EASS, 家族, LGBT, Grit

---

<sup>1</sup> 元大阪商業大学 JGSS 研究センターポスト・ドクトラル研究員 (2016 年 4 月～2017 年 3 月)

## 1. はじめに

日本版総合的社会調査 (Japanese General Social Survey : JGSS) は、日本人の意識と行動の特徴や変化を継続的に調査する共同研究プロジェクトである。2000年以降、10回の全国調査を実施しており、2017年1～3月に実施したJGSS-2017は第11回目にあたる。JGSSは2003年末に、アメリカのGeneral Social Survey (GSS) を範として、それぞれの社会で総合的社会調査に取り組んでいる韓国・中国・台湾の研究チームと連携して、東アジア社会調査 (East Asian Social Survey : EASS) を立ち上げた。JGSSは大阪商業大学JGSS研究センター (研究代表：岩井紀子) が、Korean General Social Survey (KGSS) は成均館大学Survey Research Center (Jibum Kim) が、中国総合社会調査(CGSS)は中国人民大学National Survey Research Center (Weidong Wang) が、台湾社会変遷調査 (TSCS) は中央研究院社会学研究所 (Yang-chih Fu) が統括している。

2003年末に協力を開始した4チームが、最初に取り組んだテーマは「東アジアの家族」であり、議論とプリテストを重ねて「EASS 2006家族モジュール」を作成し、それぞれが実施する全国調査に組み込んでデータを収集して、国際統合データを作成した。

EASS プロジェクトは、その後、「EASS 2008 東アジアの文化とグローバリゼーション」、「EASS 2010 東アジアにおける健康と社会」、「EASS 2012 東アジアの社会的ネットワークと社会関係資本」、「EASS 2014/2015 東アジアの仕事と生活」をテーマに取り上げた。EASS 2006から2012までのデータは、EASS のデータアーカイブであるEASSDA (KGSSが管轄) とミシガン大学のICPSR (Inter-university Consortium for Political and Social Research) に寄託している。

最初に取り組んだEASS 2006から10年が経過し、4つの社会における産業構造と家族政策は新たな段階に入っている。少子高齢化が急速に進み、中国は一人っ子政策が2013年に緩和され、2015年には廃止された。日本では2015年4月にパートタイム労働法の改正が施行され、配偶者控除と配偶者特別控除の金額の引き上げが決まり、2018年1月から施行される。4チームは、「EASS 2006 (E06) 家族モジュール」のデータと比較できる形で「EASS 2016 (E16) 家族モジュール」を作成し、日韓中台の家族の現状をとらえて、この10年間に生じた変容を明らかにすることを目標に定めた。

2017年1～3月に実施したJGSS-2017 (J17) は、このようにEASS 2016「家族モジュール」を中心としている。しかし、ほかにも社会の持続可能性にかかわる人々の意識と行動—所得の再分配、育児・教育責任、高齢者の生活費・介護責任、自然災害のリスク認知、地域の対応力・存続可能性、再生可能エネルギーの利用、節電行動、原発政策—を尋ねている。節電行動は2002年から、再生可能エネルギーは2008年から、環境汚染は2010年から継続して尋ねており、2011年に発生した東日本大震災と原発事故の前後の人々の行動と意識について比較できるデータとなる。さらにJ17には試験的に、個人の成績・業績・転職行動などとの関連が指摘されている人々の粘り強さ (Grit) のスケール (西川ほか 2015) を、日本での全国調査に初めて組み込んだ。また、LGBT関連の設問を組み込み、ペット関連の設問は、JGSSの過去の設問から一部を復活し、さらに新たな設問を加えた。

Gritスケールについては、西川らが作成した日本語版とは別に、Duckworth et al. (2009) によるアメリカのオリジナルのGritスケールから設問文と選択肢を訳し直したJGSS版を作成し、JGSS-2017のサンプルを2つに分けたsplit-ballotにより回答分布を比較することにした。JGSSでは、各調査対象者に面接調査票と留置調査票への回答を求めており、J17では、面接票は全員同一であるが、調査対象者の半数に配布する留置A票には西川らの日本語版Gritスケールを、残りの半数に配布する留置B票にはJGSSで訳し直したGritスケールを組み込み、結果を比較する。スケールの訳し直しにあたっては、Duckworthの許可を得た。

本稿では、次節以降、EASS 2016 家族モジュールの基礎となる EASS 2006 家族モジュールとそのデータの概要、EASS 2016 家族モジュールの概要、LGBT 関連設問とペット設問、Grit スケールについて、最後に、JGSS-2017 の調査票全体の概要を示す。

## 2. EASS 2016 家族モジュール

### 2.1 EASS 2006 家族モジュールとデータの概要

東アジアに位置する日本、韓国、中国、台湾は、衝突を含む長い交流の歴史と儒教的価値観を共有し、

表1 EASS 2006 の概要

	日本	韓国:KGSS	中国:CGGS	台湾:TSCS
調査対象	20～89歳の男女	18歳以上の男女	18～69歳の男女	19歳以上の男女
抽出方法	層化2段無作為抽出	層化3段無作為抽出	層化4段無作為抽出	層化3段無作為抽出
調査方法	面接・留置法併用	面接法	面接法	面接法
実施時期	2006年10～12月	2006年6～8月	2006年9～11月	2006年7～8月
計画標本	3,998	2,500	7,872	5,032
有効回収数(回収率*)	2,130(59.8%)	1,605(65.7%)	3,208(38.5%)	2,102(42.0%)

\*各チームが報告している値に基づいており、それぞれ算出方法は異なる。

短期間に工業化を進め、産業構造が急激に変容したことも共通している（岩井・上田 2011：付表「日韓中台の比較年表」に出来事を整理）。しかし、歴史的状況や政治体制の違いから、産業の発展段階やスピード、企業経営のスタイルおよび仕事と生活との関係は異なり、このことが、4つの社会における男女の役割、家族構成、家族関係に影響を及ぼし、類似性と差異をもたらしている（岩井 2017）。

日韓中台の4チームは、このことを踏まえて「E06家族モジュール」に次のトピックを組んだ。調査対象者・配偶者・同居の子や親のみならず、別居の子や親の年齢・健康状態・婚姻状態・就労状態・地理的距離・直接接触頻度・間接接触頻度の情報をはじめ、世代間の経済的支援・実践的援助の頻度、援助に関する意識、三世同居への賛否、老親の世話の責任の所在、父系優先意識、家継承意識、性別役割分業意識、結婚観、離婚観、理想の子ども数、子どもの性別選好、配偶者との出会い、親の意向の影響、家族一緒の行動、家庭内での意思決定、家事分担、配偶者との関係性・満足感などについての設問である。4チームが「E06家族モジュール」を組んで実施したそれぞれの調査の概要は、表1の通りである。JGSS研究チームは、国際統合データを基に『East Asian Social Survey EASS 2006 Family Module Codebook』を2009年に刊行し、JGSS研究センターのウェブサイトに掲載している<sup>(1)</sup>。また、4つの社会の家族を比較・解説した研究書（岩井・保田2009; Iwai & Yasuda 2011）を刊行した。なお、「E06家族モジュール」を組んだJGSS-2006の『基礎集計表・コードブック』は、2008年に刊行され、ウェブサイトに掲載している<sup>(2)</sup>。

## 2.2 EASS 2016 家族モジュール

4チームは、2015年9月の台北会議でE16家族モジュールの協議を開始した。E06家族モジュールをたたき台として、大多数を継続設問としたが、あまり活用されなかった項目は削除した。家族意識に関する項目は絞り込む一方で追加も行い、家事項目は増やすなどして、2016年3月の北京会議で確定した。

表2 調査対象者の世帯員・家族に関する設問の有無

	父・母	子ども	他の世帯員	一時別居世帯員	義父・義母
続柄	—	—	○	○	—
性別	—	○	○	◎	—
同別居・死亡	○	○	—	—	◎
年齢	○	○	○	◎	◎
婚姻状態	○	○	◎	◎	◎
仕事の有無	○	○	◎	◎	◎
一時別居理由	◎	◎	—	○	◎
誰と同居	◎	—	—	—	◎
物理的距離	◎	◎	—	—	◎
会う頻度	◎	◎	—	—	◎
交流頻度	◎	◎	—	—	◎

○JGSS-2008/2010/2012/2015/2017に有；◎JGSS-2017で追加

E16では、E06と同様に、調査対象者が同居している世帯員ならびに一時別居している家族、さらに親（配偶者の親）や別居している子どもの属性と、彼らとの交流頻度などについて、詳しく尋ねている。（表2）。具体的には、①対象者の両親や子どもと一時別居している場合の理由、②両親が誰と同居しているか、③別居している両親や子どもとの物理的距離・会う頻度・交流頻度、④以上の情報について対象者の両親のみならず配偶者の両親について、⑤両親や子ども以外の同居世帯員の婚姻状態と仕事の有無、⑥一時別居している世帯員（配偶者・子ども・両親以外の祖父母や孫、子どもの配偶者など）の婚姻状態と仕事の有無について尋ねている。

E16では、E06と同様に、世代間の経済的支援・実践的援助の頻度、援助に関する意識、三世同居への賛否、老親の世話の責任の所在、父系優先意識、家継承意識、性別役割分業意識、結婚観、離婚観、親の意向の影響、家族一緒の行動、家庭内での意思決定、家事分担、配偶者との関係性、結婚生活への満足感などについて尋ねている。

E06 の項目のうち、E16 で削除した項目は、以下の項目である。

- 親に対する経済的支援意識：未婚男性→実親、未婚女性→実親（既婚男性→実親/妻の親、既婚女性→実親/夫の親への支援意識はE16 でも尋ねている）
- 性別役割分業意識：男性はもっと家事をすべき、不況の際に男性よりも女性が先に解雇されてもよい
- 家の継承意識：長男は多くを相続すべき、親を介護した子どもは多く相続すべき
- 結婚後おける親からの経済援助（家の購入、家賃、起業資金）：実の親から、配偶者の親から
- 理想の子ども数、子どもの性別選好、配偶者との出会い

E16 で新たに加えた項目は、以下の項目である。

- 家事の頻度：調査対象者と配偶者（家の簡単な修理、日用品の買い物）
- 夫婦の意思決定：高価な買い物
- 性別役割分業意識：母親の就業が未就学児に与える影響

E16 の項目は組込んだが、選択肢はEASS 尺度でなく、JGSS 尺度を採用したのは、以下の項目である。

- 対象者・配偶者・父親・母親・配偶者の父親・母親の健康状態：EASS 尺度（非常に良い⇔非常に悪いの5点尺度）ではなく、JGSS 尺度（良い⇔悪いの5点尺度）で測定；E16 を組み込む JGSS-2017 と JGSS-2018 のサンプル規模に余裕がなく、留置調査票を2種類にすることはできず1種類であり、健康状態のような JGSS の継続設問については、EASS 尺度ではなく、JGSS 尺度を採用した。

E16 に関連して JGSS が独自に加えた項目は、結婚観（結婚の最大の利点は経済的安定）である。

E16 を含む J17 のすべての項目は、後述する「6. JGSS-2017 調査項目の概要」に記す。

### 2.3 EASS 2016 家族モジュールを組み込む日韓中台の調査の概要

EASSの4チームは、それぞれが実施する全国調査の調査票にE16 モジュールを組み込んだ。表3に示すように、KGSSとTSCSはE16 を組み込んだ全国調査を2016年に、CGSSは2017年に、JGSSは2017年と2018年に実施する。4チームは、E12モジュールを組み込む調査までは、調査年度を合わせることができた。しかしその後、KGSSとJGSSが調査費を安定的に確保できず、E14/15モジュール以降は調査年度を統一できていない。KGSSのように、E14/15モジュールを組み込む本体の全国調査を実施できなかったこともある。

JGSSは、2016年4月に「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業機能強化支援」の助成を得たことにより、2017年1～3月に、E16モジュールを組み込んだJGSS-2017（J17）を実施することを決めた。ただし、予算の制約から、サンプル規模は、全国の20～89歳男女1,500人（101地点）に留まった。個票データを基に家族を分析する場合は、回答者の性別・年齢・婚姻状況・子どもの有無・就業の有無・親との同別居状況など、コントロールすべき変数が多いため、少なくともE06の有効回収数2,130人を確保したい。

E06モジュールを組み込んだJGSS-2006を実施した2006年からの10年間に、回収率が低下し（JGSS-2006は59.8%→JGSS-2015は52.6%）、高齢化率が上昇（2006年の20.8%→2016年の26.7%）したことを考慮すると、20～89歳を調査対象とするJGSSでは、サンプル規模として4,000人をかなり上回ることが望まれる。そこで、JGSSチームは、J17の実施準備と並行して、J17の拡大調査をJGSS-2018（J18）として実施する研究計画を作成した。2017年4月に、J18 実施費用の目途がつき<sup>(3)</sup>、2018年2～4月に全国の20～89歳男女4,000人（267地点）を対象に、J17とほぼ同じ調査票を用いて、J18を実施する。J17の有効回収数は744人と統計分析を

表3 EASS 2016 家族モジュールを組み込む日韓中台の全国調査の概要

	日本		韓国:KGSS	中国:CGGS	台湾:TSCS
調査対象	20～89歳の男女		18歳以上の男女	18歳以上の男女	18歳以上の男女
抽出方法	層化2段無作為抽出		層化2段無作為抽出	層化3段無作為抽出	層化3段無作為抽出
調査方法	面接・留置法併用		面接法	面接法	面接法
実施時期	2017年1～3月	2018年2～4月	2016年6～10月	2017年6～10月	2016年8～10月
統合データへの提供時期	2018年4月	2018年12月	2018年4月	2018年4月	2018年3月
計画標本	1,500	4,000	2,400	6,000	4,000
回収数(見込み)	744	(1,984)*	1,052	4,000	2,024

\*JGSS-2017の粗回収率49.6%に基づく

行うには厳しい。J17とJ18は、実施時期が1年ずれるが、回答がこの1年間の社会状況の変化に左右されにくい項目については、2つのデータを統合して分析できる見込みである。J17とJ18の統合データの作成は2018年10月頃、EASSへのJGSSデータの提供は2018年12月頃を予定している。

なお、JGSS-2017では、本稿の「5. Grit 項目の導入について」で述べるように、Grit 尺度の選択肢と翻訳を検討するために、調査対象者 1,500 人の半数には面接調査票と留置 A 票（西川らの日本語版 Grit を含む）を、残りの半数には面接調査票と留置 B 票（JGSS による日本語版 Grit を含む）を実施することにした。

### 3. LGBT 関連項目の導入の検討について

近年、東京都・三重県・兵庫県・沖縄県など各自治体で、同性パートナーシップ宣誓制度が導入され、同性婚や LGBT (Lesbian Gay Bisexual Transgender) への関心が高まりつつある。石田・川口・釜野・吉仲・風間 (2015) は、同性婚の賛否について 20~79 歳の 2,600 人 (地点数 130) を対象に留置調査法 (一部郵送回収) で調査を実施し (有効回収率 48.4%)、研究を蓄積している。JGSS では、最初の調査である JGSS-2000 以降、不定期に「同性愛への態度」などについて尋ねている。釜野らの研究グループ (石田ほか 2015) は、このことを踏まえて、LGBT 関連の設問を JGSS に組み込みたいという研究課題を寄せた。

JGSS 研究センターでは、LGBT 関連の設問を JGSS の調査票に組み込むことが調査の実施に与える影響と、どのような設問であれば組み込むことが可能であるかについて、運営委員とメールで協議を重ねた。また、設問の立て方について釜野らのグループと協議を重ねた。LGBT についての全国調査のデータは非常に少なく、重要な課題である。一方、調査対象者のセクシュアリティ (生まれた時の戸籍上の性別、自己アイデンティティとしての性別、性愛の対象) について尋ねることは、住民基本台帳の閲覧を申請する際に自治体から、調査対象者が嫌がるのではないかと、住民基本台帳の閲覧を拒否する理由として挙げられる可能性がある。JGSS-2015 では、JGSS の継続設問である「支持政党」や「信仰する宗教」を尋ねることがプライバシーに抵触するとして閲覧を拒否した自治体がある。また、調査対象者のなかには、これらの項目が入っていることを理由に調査全体を拒否する可能性があるかと推察される。つまり、組み込む設問の内容によっては、住民基本台帳の閲覧を拒否する自治体が増えたり、回収率が低下する可能性が予測された。

JGSS では、1998 年に JGSS プロジェクトを開始するにあたり、JGSS が範とするアメリカの GSS の調査票を 1972 年の第 1 回目からくまなく精査した。GSS では、「同性愛への態度」についての設問 (What about sexual relations between two adults of the same sex—do you think it is always wrong, almost always wrong, wrong only sometimes, or not wrong at all?) は、1973 年以降ほぼ継続的に尋ねられており、JGSS では第 1 回目の JGSS-2000 と JGSS-2001 ならびに JGSS-2008 に組込んでいる: 「同性間の性的関係について、あなたの考えは以下のどれですか」 (表 4)。

GSS では、「同性愛への態度」について継続的にモニターする一方、2006 年以降は「同性の結婚を法的に認める」ことの是非を継続的に尋ねている (Do you agree or disagree? Homosexual couples should have the right to marry one another)。

表 4 同性愛への態度についての設問 (Q4HMOSEA) の度数分布

コード	JGSS調査票質問番号	留50 2000年	留50 2001年	留B31 2008年
1	例外なく悪い	30.9%	30.8%	31.7%
2	たいていの場合悪い	26.2%	25.7%	22.9%
3	必ずしも悪くない	32.3%	32.9%	34.7%
4	悪くない	6.6%	6.8%	7.5%
9	無回答	4.0%	3.7%	3.2%
	計 (%)	100.0%	100.0%	100.0%
	計 (人)	2,893	2,790	2,160

Q34 あなたは、同性どうしの結婚を法で認めることに賛成ですか、反対ですか。

1	2	3	4
賛成	どちらかといえば 賛成	どちらかといえば 反対	反対

図1 JGSS-2017のLGBT関連項目：「同性婚」の賛否を問う設問

上記のように検討した結果、セクシャリティについて、一般論ではなく調査対象者自身について尋ねることはやはり難しいと判断した。さらに、JGSSのサンプル規模（J17は1,500；J18でも4,000）では、戸籍上の性別を変更したケースや自己アイデンティティとしての性別と戸籍上の性別の不一致のケースなど、数少ない事象についてとらえることは難しいと判断した。結論として、JGSS-2017では、「同性の結婚」についての賛否を尋ねる設問のみを組み込むことにした（図1）。「同性の結婚」への態度は、回答者の職種・年齢・居住地域と関連していると指摘されている（石田ほか 2015）。

#### 4. ペットの関連項目の導入について

近年、猫の飼育頭数と犬の飼育頭数の差が縮まっている（一般社団法人ペットフード協会 2016）。猫の飼育頭数は横ばいであるが、犬の飼育頭数は減少傾向にある（図2）。ペットは家族の一員としての存在感を発揮していると指摘されるなかで（杉田 2002, 2005a, 2005b, 2008）、日本のペットの飼育数と種類は大きな変動を迎えようとしている。

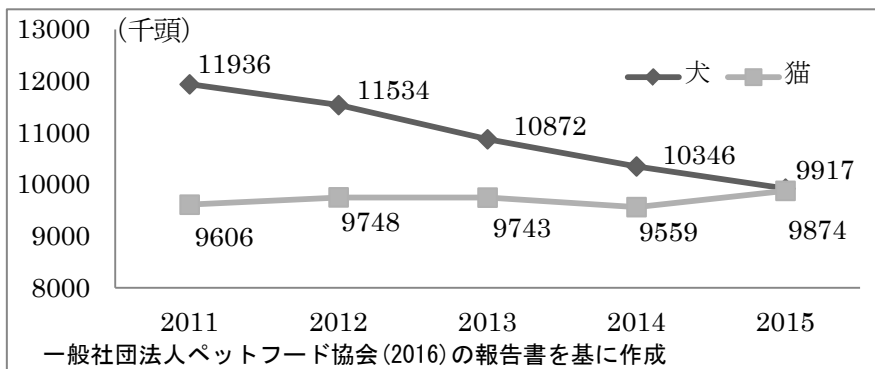


図2 犬猫の飼育頭数の推移

Q10-1 あなたの家では現在、犬や猫あるいはその他の種類のペットを飼っていますか。  
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	2	3	4	5	6
犬(室外で)	犬(室内で)	猫(室外で)	猫(室内で)	その他	何も飼っていない

↓

Q10-2 ペットにかかる医療費は平均して1カ月にどれくらいですか。

約  円

Q10-3 あなたが世話（食事、トイレの始末、散歩など）をしているペットはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	2	3	4	5	6
犬 (室外で)	犬 (室内で)	猫 (室外で)	猫 (室内で)	その他	いずれも世話 していない

↓

Q10-4 世話にかかる時間は平均して1日にどれくらいですか。

約  時間  分

図3 JGSS-2017のペット関連項目

ペットの数と種類以外に、近年では、ペットの動物を多数飼育した飼い主が、異常繁殖の末、飼育不可能となる多頭飼育崩壊現象や、少子高齢化が進むなかで、ペットへの依存、家の物理的崩壊、経済崩壊など、飼い主とペットとの過ごし方が注目されている。

JGSS では、プロジェクトの開始当初から「ペット」の問題に注目して、JGSS-2000 と 2001 では「ペットの保有」、「ペットの種類」、「ペットの存在意義」および「ペットと過ごす時間」について尋ね、JGSS-2006 では、保有だけではなく、「世話をしているペットの種類」と「存在感」について尋ね、さらに「犬または猫の死の経験の有無」、「ペットの管理」と「ペットの安楽死」についての意見を尋ねている。JGSS-2017 では、JGSS-2006 から「ペットの保有」と「世話をしているペット」の設問を復活させ、「ペットを世話する時間」と「ペットの医療費」の設問を新たに加えた（図 3）。

## 5. Grit 項目の導入について

近年、学力や就学後の生きる力として非認知能力が注目されている（週刊東洋経済 2015）。その中でも、Grit（根性、やり抜く力）は、学業達成のみならず社会的達成にも寄与するとして、欧米の研究で注目されている新たな性格特性である（Duckworth, Peterson, Matthews, & Kelly 2007）。発案者の Duckworth は、Grit スケールを用いて、GPA や SAT などの学業成績との関連を示している（Duckworth et al., 2007; Duckworth & Quinn 2009）。Grit は、年収・職業など社会的達成にも影響することが指摘され（Duckworth, 2016）、学業達成要因とされている自己制御や誠実性と関連し、熱意や活力を含む性格特性である（図 4；西川・奥上・雨宮 2015）。

Grit（根性、やり抜く力）は、東アジアで重視されている資質の一つであり、JGSS プロジェクトは、Grit スケールを EASS 2008 東アジアの文化とグローバリゼーション・モジュールの 10 年後をとらえる EASS 2018 に加えることを、他の 3 チームに提案することにした。その準備として、Grit-S 尺度をどのように訳すべきかを J17 で確認し、中学 3 年時の成績や転職回数、年収などの変数と Grit Score との関連を見ることにした。

### 5.1 Grit の日本語版

Duckworth の Grit-S スケールについては、西川らが日本語版（西川・奥上・雨宮 2015）を作成しており、信頼性と妥当性を検証している。日本では、学生を対象とした研究が中心で、幅広い年齢層を対象とした調査は実施されていない。

Duckworth の Grit の構成概念に対しては、批判も向けられている（Credé, Tynan, & Harms 2016）。8 項目からなる Short Grit Scale は、「根気（Perseverance of Effort）」尺度と「一貫性（Consistency of Interest）」尺度の 2 成分を含む。Duckworth & Quinn（2009）の論文では、この 2 成分の妥当性と信頼性が示されているが、その後の研究では、「根気」尺度と「一貫性」尺度を合わせた Grit-S 尺度が使用されており、Grit の 2 成分に触れた研究はほとんど展開されていない。この Grit-S 尺度は、パーソナリティ特性である Big Five の「誠実性」と非常に高い相関（ $r = .77$ ）を示すため、Credé et al.（2016）は、Grit-S 尺度は「誠実性」で代用できると指摘している。また Grit-S 尺度研究（Duckworth & Quinn 2009）の確認的因子分析やロジスティクス分析において、不可解な数値が存在するとして、Grit の構成概念に対して疑問を指摘している。

西川ほか（2015）は、Duckworth の許可を得て、日本語版の Grit-S 尺度の開発に取り組んだ。日本語版 Grit-S 尺度では、「根気」と「一貫性」の 2 つの成分は、探索的因子分析と確認的因子分析により確認されている。妥当性の基準として検討した Big Five の「誠実性」尺度と「自制心」尺度との相関分析では、「根気」尺度と「一貫性」尺度はともに正の相関を示し、いずれについても「根気」尺度の方が大きな値を示した。日本語版 Profile of Mood States（POMS）短縮版尺度の活力尺度との相関分析では、「一貫性」尺度は無

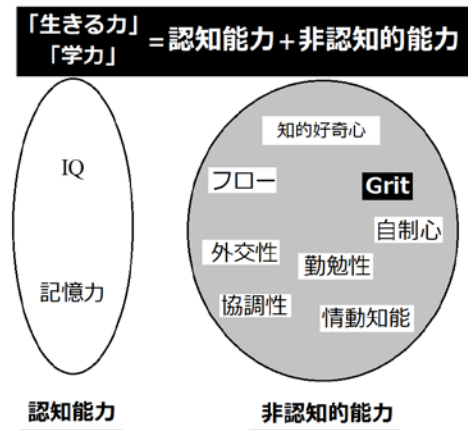


図4 非認知能力と認知能力の要素とその関係  
（参照：週刊東洋経済 2015, p.62 の図；一部編集）

相関 ( $r = .04$ ) であるが、「根気」尺度とは正の相関 (根気 :  $r = .29$ ) を示した。このことは、Grit-S の 2 つの成分である「根気」と「一貫性」が異なるものであることを示唆している。

## 5.2 Grit の国際比較の問題点

Duckworth がウェブサイトにおいて、Grit 得点が診断できる Grit Scale として示しているのは、10 項目の尺度である (<https://angeladuckworth.com/research/>)。参照として、Grit スケール 12 項目版、8 項目版 (短縮版)、中国語版 (8 項目)、スペイン語版 (8 項目)、フランス語版 (12 項目)、ドイツ語版 (12 項目)、日本語版 (8 項目 ; 西川ほか 2015)、子ども用 (8 項目) が掲載されている。Duckworth が、Grit Scale の開発と妥当性について記述している Duckworth & Quinn (2009) で使用した Grit 尺度は 8 項目版である。その論文では、Grit スケールの 5 件法の表記について“Using a 5-point Likert-type scale ranging from 1 (Not at all like me) to 5 (Very much like me)”と記載されている (p. 168)。西川らは、この記述をもとに、日本語版 Grit 尺度の開発に 2011 年からとりかかり、日本語版 Grit 尺度を作成した。Likert 尺度の 5 件法という場合、両端の選択肢のワーディングに「とても〜」をつけるよりは、「当てはまる/やや当てはまる/どちらとも言えない/やや当てはまらない/当てはまらない」の方が、若干ではあるが量的にも質的にも 5 件法の等間性が確保されると指摘されている (脇田 2003)。そこで、西川らの日本語版 Grit 尺度では 5 件法の選択肢として「当てはまる/やや当てはまる/どちらとも言えない/やや当てはまらない/当てはまらない」を採用した (図 5)。後に、Duckworth がウェブサイトを立ち上げ、Grit の項目を示した際には、8 項目版 (短縮版) の 5 件法は、縦並びで各選択肢に番号はなく、文字どおりの Likert 尺度ではないことが判明した (図 5)。

Duckworth の選択肢は、左右非対称の中間値のない尺度である。5 件尺度において、尺度全体が左右対称か非対称か、中間値があるかないかについては、JGSS プロジェクトが発足当時から注目し、split-ballot の予備調査を実施して、回答分布に及ぼす影響を確認してきた問題である (岩井 2000, 杉田・岩井 2001, 2003)。また、EASS の健康尺度に関して、4 チームのそれぞれの言語での翻訳がこの点を看過してしまったことにより、主観的健康観の回答分布に意図しない影響を引き起こしてしまった経験もしている (Iwai 2017)。

JGSS プロジェクトでは、Duckworth の Grit 尺度の質問文と選択肢を検討した結果、いくつかの疑問を感じて、研究代表の岩井紀子が、Duckworth にメールで直接問い合わせた。問い合わせた内容は、1) 12 項目の Grit 尺度と 8 項目の短縮版では、尺度全体の信頼性と妥当性が検証されているが、ウェブサイトに掲載されている 10 項目の Grit 尺度は信頼性と妥当性が検証されているのか。2) なぜ、10 項目の Grit 尺度をウェブサイトの冒頭に示しているのか。3) 10 項目の Grit 尺度の項目の中には、8 項目の尺度や 12 項目の尺度での項目に文言が足されている項目がある。“Setbacks don't discourage me.”が“Setbacks don't discourage me. I don't give up easily.”や“I am diligent.”が“I am diligent. I never give up.”となっている。“I don't give up easily.”や“I never give up.”を追加する際に、これらがない場合と等価であるという検証を行ったのか。4) JGSS プロジェクトでは、Duckworth の 8 項目版の項目と選択肢を、西川ほか (2015) とは異なる、英語のニュアンスをそのまま残した日本語版に訳し直したい。問題はないか。

Duckworth の回答は、以下のとおりであった。1) 10 項目の尺度については、信頼性と妥当性の検証はしていない。2) 10 項目の方が平均を算出する計算が容易であるからウェブサイトに掲載している。個人的には、8 項目尺度の利用を推奨する。3) 文言を追加するにあたって等価性の検証は行っていない。4) 研究である限り、日本語の別の訳が出てきてもかまわない。

Duckworth の Grit 尺度の選択肢 <sup>1)</sup>	日本語版 Grit-S 尺度の選択肢 <sup>2)</sup>
Very much like me	5 当てはまる
Mostly like me	4 やや当てはまる
Somewhat like me	3 どちらともいえない
Not much like me	2 やや当てはまらない
Not like me at all	1 当てはまらない

1) 12-Item Grit Scale, Short Grit Scale (8-Item), Grit Scale (10-Item)  
<https://angeladuckworth.com/research/>  
 2) 西川一二・奥上紫緒里・雨宮俊彦 (2015)

図 5 Duckworth の Grit 尺度の選択肢と日本語版 Grit 尺度の選択肢



Grit 中国版では、選択肢は、「非常像我/大部分像我/有些像我/大部分不像我/完全不像我」と訳されており、3つ目の選択肢は、日本語でいう「どちらともいえない」ではなく、「少し当てはまる」にあたる。Grit ドイツ語版も、3つ目の選択肢は「一部部分的にあてはまる」であり、Grit フランス語版も同様に、中間値ではなく「あてはまる」に振れている。

<p><b>【Duckworth の Short Grit Scale】</b></p> <p>1. New ideas and projects sometimes distract me from previous ones.*                  2. Setbacks don't discourage me.                  3. I have been obsessed with a certain idea or project for a short time but later lost interest.*                  4. I am a hard worker.                  5. I often set a goal but later choose to pursue a different one.*                  6. I have difficulty maintaining my focus on projects that take more than a few months to complete.*                  7. I finish whatever I begin.                  8. I am diligent.</p> <p>Very much like me /Mostly like me /Somewhat like me /Not much like me /Not like me at all                  1、3、5、6については 1 = Very much like me /2 = Mostly like me /3 = Somewhat like me /4 = Not much like me /                  5 = Not like me at all として加算し、2、4、7、8については 5 = Very much like me /4 = Mostly like me /                  3 = Somewhat like me /2 = Not much like me /1 = Not like me at all として加算し、8 項目の合計点を 8 で割る。</p>							
<p><b>【留置 A 票】</b></p> <p>Q15 以下の 8 つの項目について、あなた自身にどの程度あてはまるかお答えください。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td></td> <td>やや 当てはまる</td> <td>どちらとも 言えない</td> <td>やや当ては まらない</td> <td>当てはまら ない</td> </tr> </table> <p>A 始めたことは何であれやり遂げる-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>B 頑張りやである-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>C 終わるまでに何カ月もかかる計画に ずっと興味を持ち続けるのは難しい-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>D 私は困難にめげない-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>E 物事に対して夢中になっても、 しばらくするとすぐに飽きてしまう-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>F いったん目標を決めてから、後になって 別の目標に変えることがよくある -----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>G 勤勉である-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>H 新しいアイデアや計画を思いつくと、 以前の計画から関心がそれる-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p>				やや 当てはまる	どちらとも 言えない	やや当ては まらない	当てはまら ない
		やや 当てはまる	どちらとも 言えない	やや当ては まらない	当てはまら ない		
<p><b>【留置 B 票】</b></p> <p>Q15 以下の 8 つの項目について、あなた自身にどの程度あてはまるかお答えください。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>とてもよく あてはまる</td> <td>よく あてはまる</td> <td>ある程度 あてはまる</td> <td>あまりあては まらない</td> <td>まったく あてはまらない</td> </tr> </table> <p>A 新しいことを考えたり、やり始めると、それまで 取り組んでいたことに集中できないことがある-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>B 挫折しても、簡単にはあきらめない-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>C 一つのことに夢中になっても、 しばらくすると飽きてしまう -----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>D 努力家である-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>E 目標を決めても、別の目標に向かうことがよくある ---&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>F 数ヶ月以上かかることに集中して 取り組み続けることは苦手である-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>G 一度始めたことは必ずやり遂げる-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p> <p>H 勤勉である-----&gt; 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5</p>			とてもよく あてはまる	よく あてはまる	ある程度 あてはまる	あまりあては まらない	まったく あてはまらない
	とてもよく あてはまる	よく あてはまる	ある程度 あてはまる	あまりあては まらない	まったく あてはまらない		

図 6 Duckworth の Short Grit Scale と JGSS-2017 の Grit Scale

そこで、JGSS プロジェクトは、J17 では、西川ほか（2015）の日本語版をそのまま組み込む調査票と、JGSS プロジェクトで訳し直した日本語版を組み込む調査票の2種類を作成して（図6）、調査対象者1,500人の半数には面接調査票と留置A票（西川らの日本語版）を、残りの半数には面接調査票と留置B票（JGSSによる日本語版）を実施することにした。

## 6. JGSS-2017 調査項目の概要

以上のように検討した結果、JGSS-2017 の調査票の構成は、以下のようになった。

### 6.1 面接調査票

JGSS-2017 の面接調査票は、対象者の属性に関する設問が中心である。2.2 で述べたように、J17 に組み込んだ E16 では、E06 の設問を復活させた。したがって、調査対象者が同居している世帯員ならびに一時別居している家族、さらに同別居に関わらず、親（配偶者の親）や別居している子どもの属性と、彼らとの交流頻度などについて、JGSS の通常の面接調査票よりも詳細に尋ねている。これに伴い、J17 では、J15 と J16 で用いた面接票のレイアウトを一部変更した（問 39, 40, 41-2, 44-2）。

面接調査票には、以下のような項目がある。

- 対象者の属性：学歴、高校の学科、出身高校の進学率、大学（大学院）の専攻分野、専門学校・専修学校への通学経験・通学時期、現在の収入源、年収（主な仕事、全体）、世帯収入、教育費支出額、婚姻上の地位、世帯構成、兄弟姉妹の数、居住地域の規模、15歳の頃の居住地、20歳の頃の居住地特性、住居形態、自分の位置する階層（10段階）
- 現職：雇用関係、雇用形態、役職、職種、事業所形態、企業規模、就労時間／週、所定労働時間／週、副業就労時間／週、就労日数／週、通勤時間、就労年数、現在の仕事への満足度、就業継続意向、失業・再雇用の可能性、労働組合加入の有無、現在仕事を探しているかどうか
- 現在就労していない対象者：不就労の理由、過去の就労経験、現在仕事を探しているかどうか
- 初職：就労時期、雇用関係、雇用形態、役職、職種、企業規模
- 前職（最終職）：雇用関係、雇用形態、役職、職種、企業規模、離職年齢、離職理由
- 結婚経験：離婚経験、死別経験、結婚（再婚）する意欲、希望する結婚（再婚）年齢
- 家族：同居世帯員（人数、続柄、性別、年齢）、一時的な別居家族（人数、続柄、別居理由）、世帯主
- 配偶者：年齢、同別居、現在の雇用関係、雇用形態、役職、職種、企業規模、就労時間／週、所定労働時間／週、副業就労時間／週、就労日数／週、就労年数、学歴、専門学校・専修学校への通学経験、年収（主な仕事、全体）、兄弟姉妹の数
- 父親・母親：年齢、学歴、婚姻状態、就労の有無、対象者が15歳の頃の職業、同別居/地理的距離、誰と一緒に暮らしているか、会う頻度、交流頻度
- 配偶者の父親・母親：年齢、婚姻状態、就労の有無、同別居/地理的距離、誰と一緒に暮らしているか、会う頻度、交流頻度
- 子ども：人数、性別、年齢、婚姻状態、就労の有無、同別居/地理的距離、会う頻度、交流頻度
- その他の世帯員：人数、続柄、性別、年齢、婚姻状態、就労の有無
- 一時別居家族：人数、続柄、性別、年齢、婚姻状態、就労の有無、別居理由
- 調査員に対して：対象者の調査への協力度、質問への理解度、調査の実施に際して気づいた点、居住地域の特徴、居住形態（一戸建て/集合住宅）、オートロックの有無（集合住宅の場合）、面接票と留置票の実施順序、面接調査開始・終了時刻、所要時間

JGSS-2017 の面接調査票のうち、EASS 2016 家族モジュールは次の項目である。

<EASS 2016 家族モジュール>

- 世帯人数
- 兄弟姉妹の数

- 配偶者の兄弟姉妹の数
- 息子・娘の数
- 世帯員：続柄、性別、年齢、婚姻状態、就労の有無
- 一時別居家族：人数、続柄、性別、年齢、婚姻状態、就労の有無、別居理由
- 子ども：性別、出生順、年齢、婚姻状態、就労の有無、同別居/地理的距離、会う頻度、交流頻度
- 対象者の父親・母親：年齢、婚姻状態、就労の有無、同別居/地理的距離、誰と一緒に暮らしているか、会う頻度、交流頻度
- 配偶者の父親・母親：年齢、婚姻状態、就労の有無、同別居/地理的距離、誰と一緒に暮らしているか、会う頻度、交流頻度

## 6.2 留置調査票

留置調査票は、調査対象者の意識や行動に関する設問が中心であり、JGSSの基本形を踏襲している。JGSSの中心となる継続設問に、2.2で紹介したE16家族モジュールを組み込み、さらに、上述した研究課題を組み込んだ。

JGSS-2017/2018ではほかにも、社会の持続可能性にかかわる人々の意識と行動—所得の再分配、育児・教育責任、高齢者の生活費・介護責任、自然災害のリスク認知、地域の対応力・存続可能性、再生可能エネルギーの利用、節電行動、原発政策—を尋ねている。節電行動は2008年から、再生可能エネルギーと環境汚染は2010年から継続して尋ねており、2011年に発生した東日本大震災と原発事故の前後の人々の行動と意識について比較できるデータとなる。

それぞれの分野に関連して以下のような項目がある。

- 生活習慣：飲酒、喫煙、テレビの視聴時間、新聞の購読、ニュース記事をインターネットで読む頻度、読書量、家族一緒の夕食頻度、友人との会食頻度、定期的に行なうスポーツの頻度、炊事・洗濯・買い物・掃除・ゴミ出し・家の簡単な修理などの家事に従事する頻度、Grit
- 健康：健康状態（JGSS尺度）、健康状態に対する満足度、希望のなさ（将来の希望、目標達成）、精神的健康（おちついた気分、活力にあふれる、おちこんだ気分）
- ペット：飼っているペットの種類、世話しているペットの種類、ペットの医療費、ペットの世話時間
- 幸福度・満足度：幸福度、生活全般への満足度（EASS尺度）、居住地域への満足度、余暇の過ごし方への満足度、家庭生活への満足度、家計への満足度、友人関係への満足度、健康状態への満足度、配偶者との関係への満足度、結婚生活への満足度（EASS尺度）、将来の経済的不安
- 人間観・信頼観：人間の本性、他人への信頼観、学者・地方議員・国会議員などの職業集団に対する信頼観、新聞・テレビに対する信頼観、学校・病院・中央官庁・裁判所・警察・自衛隊・大企業・金融機関・労働組合・宗教団体などの機関や団体に対する信頼観
- 家族・ジェンダー：性別役割分業観（EASS尺度）、結婚観・離婚観（EASS尺度）、同性婚、三世代同居観、家庭生活に対する満足度、理想の子ども数、希望する子どもの性別、家族一緒の夕食の頻度、家族の介護経験（時期、対象）、国・自治体の責任か個人・家族の責任か（高齢者の生活保障、高齢者の医療・介護、子どもの教育、保育・育児）
- 宗教：信仰している宗教、家の宗教、宗教の団体や会への所属、信仰の度合い、宗教団体への信頼
- 居住環境・地域環境：地域での居住年数、将来にわたる居住希望、居住地域の存続についての不安感、地域に外国人が増えることへの賛否、居住地域への満足度、自然災害時の地域の人どうしの協力、近隣状況（互いに気にかけている、困っていたら手助けしてくれる）、など
- 社会階層：階層帰属意識（5段階）、世帯収入についての主観的水準、15歳時の世帯収入についての主観的水準、所得格差の拡大、家計への満足度、将来の経済的不安、中学3年の頃の成績
- 団体への所属：政治団体、業界団体、ボランティアグループ、市民団体、消費者組合、宗教団体、スポーツ・クラブ、趣味の会などへの所属の有無
- 政治意識：支持政党、所得格差の拡大、所得格差の是正、原子力政策東日本大震災関連設問：環境保

護に資するエネルギー利用（太陽光発電，深夜電力，エコウィル／エコキュート，低公害車）、節電行動（電気はこまめに消す，消費電力を減らす工夫）、環境汚染（大気汚染，水質汚染，土壌汚染）、原子力政策への意見、大規模災害発生の可能性（地震，津波，水害，豪雪，噴火，土砂，原子力発電所の事故）、大規模災害発生に対する不安、放射性物質による食品汚染の不安感、自然災害時の地域の人どうしの協力

JGSS-2017 の留置調査票のうち、EASS 2016 家族モジュールは次の項目である。

<EASS 2016 家族モジュール>

- 親に対する経済的支援意識：既婚男性→実親/妻の親；既婚女性→実親/夫の親
- 経済的・実践的世代間援助：実親⇔対象者、配偶者の親⇔対象者、対象者⇔子ども
- 最も頻繁に接触する子ども
- 家事頻度：対象者・配偶者（夕食の用意，洗濯，掃除，日用品の買い物，家の簡単な修理）
- 老親の世話の責任
- 家族意識（EASS 尺度）：父親の権威、子どもは親の名誉のために努力すべき、男子優先相続、父系優先、個人よりも家族優先、結婚観（夫が年長，子どもをもつ必要性，男性の幸福は結婚，女性の幸福は結婚，同棲容認）、離婚観（離婚は子が育つまで待つ，離婚は良い手段）
- 性別役割分業意識（EASS 尺度）：妻は夫の手助け、性別役割分担、母親の就業の幼児への影響
- 生活全般への満足感
- 家族一緒の夕食頻度、家族一緒のレジャー頻度
- 結婚年齢、結婚回数
- 対象者が配偶者の悩みを聞く程度、配偶者が対象者の悩みを聞く程度
- 夫婦間の意思決定：子どものしつけ、親の世話、高価な品物の購入
- 結婚生活への満足度
- 健康状態：対象者、配偶者、対象者の父親・母親、配偶者の父親・母親（JGSS 尺度）
- 15 歳時の居住地の規模

<EASS 2016 家族モジュール関連 JGSS 独自設問>

- 夫婦間の意思決定：家計の管理（JGSS と TSCS）
- 家事頻度：対象者・配偶者（ゴミ出し）（JGSS と TSCS）
- 三世同居への賛否（JGSS と TSCS）
- 国・自治体の責任 vs 個人・家族の責任：高齢者の生活保障、高齢者の医療・介護、子どもの教育、保育・育児（JGSS と TSCS）
- 結婚時の親の意向の影響（JGSS と KGSS）
- 配偶者との出会い方
- 結婚観：結婚の最大の利点は経済的安定
- 家族の介護経験：対象者・配偶者（時期，介護した相手）
- 理想的な子どもの数
- 子どもの性別選好

<EASS 2016 Standard Background Variables>

- 対象者：性別、年齢、婚姻上の地位、最終学歴、教育年数、健康状態、就労状況、雇用形態、フルタイム／パートタイム、常時雇用／臨時雇用、営利組織／非営利組織、官公庁・民間、週就労時間、現職（最終職）の ISCO2008 職業コード、年収（主な仕事・仕事以外）、世帯収入、信仰する宗教、自分の位置する階層（10 段階）、相対的世帯収入、地域ブロック、自己判断による居住地域の規模
- 世帯：人数、世帯員

- 配偶者：年齢、最終学歴、教育年数、就労状況、雇用形態、フルタイム／パートタイム、常時雇用／臨時雇用、営利組織／非営利組織、官公庁・民間、週就労時間、ISCO2008 職業コード、年収
- 父親・母親：最終学歴、教育年数

## 7. おわりに

本稿ではJGSS-2017の調査項目の概要を紹介した。JGSS-2017は、「EASS 2016 家族モジュール」の共通設問を加えることにより、JGSS-2006から10年ぶりに、別居している親や子どもを含めて、家族の同別居や相互の交流頻度や支援の状況について、より詳細な情報を提供することになる。結婚観、家族観、性別役割分業の実態と意識についても、10年ぶりに設問を復活させ、さらに新たな設問を加えている。また、同性婚についての設問を加え、ペットの設問を復活させ、医療費の設問を加えることにより、新たな分析を可能にしている。さらに、Grit 尺度については、EASS 2018 東アジアの文化とグローバリゼーション・モジュールに組み込むことをEASSの他のチームに提案する前提として、split-ballotの方法により、質問文と選択肢の翻訳を詳細に検討している。JGSS-2017は、海外の先行研究においてGrit 尺度と関係すると指摘されている学業や職業の変数との関係を全国調査で検討することができる希少なデータとなる。JGSS-2017では、社会の持続可能性にかかわる人々の意識と行動についても引き続き掘り下げており、今回追加された新規設問により、今後の研究の幅はさらに広がるものと期待される。

### [Acknowledgment]

日本版 General Social Surveys (JGSS) は、大阪商業大学 JGSS 研究センター（文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点）が実施している研究プロジェクトである。JGSS-2017 は、特色ある共同利用・共同研究拠点形成事業費補助金、JSPS 科研費 17H01007（研究代表:岩井紀子）と大阪商業大学の支援を受けている。

### [注]

- (1) <http://jgss.daishodai.ac.jp/research/codebook/EASS2006FamilyModuleCodebook.pdf>
- (2) [http://jgss.daishodai.ac.jp/research/codebook/JGSS-2006\\_Codebook\\_Published.pdf](http://jgss.daishodai.ac.jp/research/codebook/JGSS-2006_Codebook_Published.pdf)
- (3) 科学研究費補助金基盤 (A) 東アジアにおける家族の変容と社会の持続可能性に関する総合的研究 17H01007：研究代表 岩井紀子

### [参考文献]

- Credé, M., Tynan, M. C., and Harms, P. D., 2016, “Much ado about Grit: A meta-analytic synthesis of the grit literature,” *Journal of Personality and Social Psychology*, 113(3): 492-511.
- Duckworth, A. L., and Gross, J. J., 2014, “Self-control and grit: Related but separable determinants of success,” *Current Directions in Psychological Science*, 23: 319-325.
- Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., and Kelly, D. R., 2007, “Grit: Perseverance and passion for long-term goals,” *Journal of Personality and Social Psychology*, 92: 1087-1101.
- Duckworth, A. L., and Quinn, P. D., 2009, “Development and validation of the short grit scale (Grit-S),” *Journal of Personality Assessment*, 91(2): 166-174.
- Iwai, N. and Tokio Y. eds., 2011, Family values in East Asia: A comparison among Japan, South Korea, China, and Taiwan based on East Asian Social Survey 2006, ナカニシヤ出版.
- Iwai, N., 2017, “Effects of Differences in Response Scale in Cross-National Surveys” The 1st RC33 Regional Conference, On Social Science Methodology: Asia, Research Center for Humanities and Social Sciences, Academia Sinica, Survey Methodology in East Asian Social Survey (EASS)
- 一般社団法人 ペットフード協会, 2016, 『平成 27 年 (2015 年) 全国犬猫飼育実態調査 結果』.
- 岩井紀子, 2000, 「Split-Ballot による質問項目の検討」『日本版 General Social Surveys (JGSS) 第 1 回予備調

- 査 基礎集計表・コードブック』15-36.
- 岩井紀子, 2017, 「日本・韓国・中国・台湾における家族の変化と East Asian Social Survey 2016 のねらい」『家族社会学研究』29(2): 155-164.
- 岩井紀子・上田光明編, 2011, 『データで見る東アジアの文化と価値観—東アジア社会調査による日韓中台の比較2』ナカニシヤ出版.
- 岩井紀子・保田時男編, 2009, 『データで見る東アジアの家族観—東アジア社会調査による日韓中台の比較』ナカニシヤ出版.
- 西川一二・奥上紫緒里・雨宮俊彦, 2015, 「日本語版 Short Grit (Grit-S) 尺度の作成」『パーソナリティ研究』24: 167-169.
- 石田仁・河口和也・釜野さおり・吉仲崇・風間孝, 2015, 『日本におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識 (2) —同性婚の賛否を規定する要因の探索的分析—』第88回日本社会学会, 101.
- 日本経済新聞 電子版, 2016, 『猫の飼育数、犬を逆転へ年々差縮まる』日本経済新聞社, 2016年1月30日.
- 週刊東洋経済, 2015, 「「教育」の経済学」東洋経済新報社, 10月24日号: 48-85.
- 杉田陽出, 2002, 「ペットのいる生活: 室外犬からザリガニまで」岩井紀子・佐藤博樹編『日本人の姿: JGSSにみる意識と行動』有斐閣選書, 281-287.
- 杉田陽出・岩井紀子, 2001, 「Split-Ballot による質問項目の検討」『日本版 General Social Surveys (JGSS) 第2回予備調査 基礎集計表・コードブック』23-43.
- 杉田陽出・岩井紀子, 2003, 「JGSS プロジェクト (3) 測定尺度と選択肢」『統計』54(12): 49-56.
- 杉田陽出, 2005a, 「子どもの代替としての犬の役割に関する一考察: JGSS のデータから」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集』4: 111-129.
- 杉田陽出, 2005b, 「子どもの代替としての猫の役割に関する一考察: 犬に関する分析結果との比較を含めて」『大阪商業大学論集』138: 25-40.
- 杉田陽出, 2008, 「ペットブームの背景」谷岡一郎・仁田道夫・岩井紀子編『日本人の意識と行動 日本版総合的社会調査 JGSS による分析』東京大学出版会, 355-367.
- 脇田貴文, 2003, 「評定尺度法における等間隔性の問題について: 項目反応理論を用いた検討」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 心理発達科学』50: 366-367.